

～ 吉野町シェアリングエコノミープロジェクトII ～

活動の様子



第2回吉野小音小街道



吉野まちじゅう図書館ガイドブック



ガイドブックオンライン引き渡し式

企画・活動概要

シェアリングエコノミーとは、個人・組織・団体等が保有する何らかの有形・無形の資源(モノ、場所、技能、資金など)を売買、貸し出し、利用者と共有(シェア)する経済モデル(引用:『シェアリングエコノミー活用ハンドブック』シェアリングエコノミー協会)のことを言います。本企画の活動拠点となる吉野町は、地域活性化にシェアリングエコノミーをうまく取り入れている地域であり、学生は地域住民の輪に加わり、一緒に地域活性化に向けた取り組みを実践的にを行い、住民主体のまちづくりや地域の課題解決の方策を学びます。



現地フィールドワーク

経緯・背景・目的

森藤ゼミはソーシャルマーケティング(社会課題に対するマーケティングの活用)の実践的活動を行ってきました。今年度は2020年度「吉野町シェアリングエコノミープロジェクト」の発展形として2点の内容を行いました。①吉野まちじゅう図書館の拡充支援(ガイドブックのリニューアルと図書館2施設の立ち上げ)、②第2回音街道(住民主体のプロ・アマ音楽イベント)の運営スタッフ(設営・運営・撤収ボランティア)です。①②は、本と音楽を介した住民間・訪問者の交流を促進する取り組みです。吉野町の関係人口・交流人口増加を支援することを目的としています。



音街道 前日設営

取り組む課題

①吉野町では、「吉野まちじゅう図書館」の取り組みを通して、本の共有をきっかけに人の交流や新たな発見が生まれるようなまちを目指しておられます。そのために、「吉野まちじゅう図書館」の認知度向上、図書館の増加促進、活動の活性化を行うことのできるICTに強い若い人材を必要としています。
②2021年から始まった空き家や古民家を活用した地域住民主体の音楽イベント「音街道」では、点在した演奏場所の設営・運営・撤収に対して臨機応変に動くことのでき、力仕事でも活躍できる人材が必要ですが、ボランティアが集まりにくいという課題があります。



図書館管理者へのインタビュー

本学(学生)の役割

①の「吉野まちじゅう図書館」は誰もが図書館と同じように書籍の貸し出し管理を行える「リプライズ」というWebサービスを利用しています。図書館管理者にはICTスキルが求められるため、学生が2か所の新設図書館の立ち上げを支援し、QRコードで各図書館情報にアクセスできる紙のガイドブックと電子ブックを制作しました。
②では、高齢化率50%以上の過疎地域での音楽イベントの設営・運営の人材不足は大きな課題です。学生は外部の訪問者の目録、ネットワークの軽さを活かし、設営・運営・撤収のボランティアを行いました。



『YOSHINO GATEWAY』図書館開設

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

本企画は、学生は地域内外の人的交流の機会を創出する地域活動を運営側から実践的に学ぶ貴重な機会となりました。①では、19カ所の図書館との連絡調整やインタビュー内容の執筆、ガイドブックの編集・校正など一連のプロセスを学生が全て実施しました。②では、住民主体の地域活性化の運営側の一員としてイベントに参加し、地域の方々や信頼関係を構築し、一緒に作り上げるプロセスを経験しました。これらの活動を通して、学生は地域活性化におけるシェアリングエコノミーの効果や学び、実践的な問題解決能力を習得しました。



まちじゅう図書館ガイドブック完成

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



人間社会学部
人間社会学科 教授
(～2022年3月まで、現 非常勤講師)
森藤 ちひろ(モリトウ チヒロ)
＜専門・担当科目等＞
ソーシャルマーケティング・消費者心理学

<関係者・企業等>

奈良県吉野郡吉野町
吉野まちじゅう図書館
「吉野小音小街道」実行委員会
吉野町役場 協働のまち推進課
八約直己(ヤツリ ナオキ)氏
国樞Core 澤木久美子(サワキ クミコ)氏